

## Ⅱ. 大学でのジョブ・カード活用事例

# 大学におけるジョブ・カード活用事例

## 【新潟大学】(学生のキャリア形成への活用)

### I 学校の概要

#### 【新潟大学】

- 所在地：新潟市内の広大な五十嵐キャンパスに8学部、旭町キャンパスに医学部、歯学部、医歯学総合病院などがある。
- 学校の概要・特徴
  - ・1949年設置。「自立と創生」を全学の理念に掲げ、日本海側ラインの中心新潟に位置する大規模総合大学として教育と研究及び社会貢献を通じて世界の平和と発展に寄与することを目的としている。
  - ・平成28年度学部生就職率98.4%と高い就職率を達成している。

### II ジョブ・カードを活用したキャリア支援の取組

- 平成29年度からキャリア教育の一環として、学部生を対象にジョブ・カードを活用。
- 1年生向け講義では、「キャリアを共に考える」(4～8月)、「キャリア意識形成と自己成長」(12～2月)で紙媒体でのジョブ・カードを作成。大学生生活における学業やそれ以外の活動に対する意識づけを高めることを目的とする。
- 2・3年生向け講義では、「社会とキャリア選択A(6～8月)・B(10～11月)」で、ジョブ・カードを電子ファイルで作成。就職活動の意識を高め、進路決定のための具体的な準備を行うことを目的とする。
- 学生には、キャリア形成上主体性を持った選択が鍵である旨を説明し、それに有効なツールとしてジョブ・カードの活用を講義。ジョブ・カード様式に加え、大学独自の補助シート(プロセスシート、キャリアアクションシート)も併せて活用。
- 地元企業役員等を「社会人インタビュー」協力者として講義に招聘しており、ジョブ・カードをオープンエントリーシートとして活用できないか、これら協力者に対し検討を要請。
- ジョブ・カード作成の前段階として、「社会人インタビュー」や学生同士のディスカッション等のワークショップを通じて学生自身のキャリアの棚卸しを実施。作成後の講義において記載内容の充実を図っている。
- 作成したジョブ・カードを基に、大学のキャリアセンターにおいて教職員によるキャリアコンサルティングを実施(1回は必須、希望者は複数回可能)。新卒応援ハローワークの学卒ジョブサポーター等によるキャリアコンサルティングも実施しており、ジョブ・カード作成支援を行う体制が整備されている。

# 大学におけるジョブ・カード活用事例

## 【新潟大学】(学生のキャリア形成への活用)

### Ⅲ ハローワークの支援

- 新卒応援ハローワークの学卒ジョブサポーター等2名を大学に派遣し、受講者を対象にしたキャリアコンサルティングを実施した。

### Ⅳ 取組への効果と課題

- 新卒応援ハローワークの学卒ジョブサポーター等がキャリアコンサルティングを行うことにより、就職支援について大学との連携の強化を図ることができた。
- 講義終了後ジョブ・カードを作成した学生にアンケートを実施し、書式や運用方法などについて意見を求め、改善につなげることを検討中。
- 当該取組を県内他大学等に周知し、大学等でのジョブ・カードの活用の推進を図る。  
【教職員からの意見】
- ジョブ・カードを活用する意義、目的を学生にきちんと説明する必要性をあらためて感じた。そうしないと、「書かされている」感が強くなり、継続的な活用につながらないと思われる。  
【社会人インタビュー対象の企業からの意見】
- ジョブ・カードの応募書類としての活用は、可能性があると思う。記入例に、頑張ったことなどをもっと記載できるといい。
- ジョブ・カードを、学生から社会人へと継続して使う、例えば、入社直後の若手社員との面談にも引き継がれる流れができればと思う。

# 大学におけるジョブ・カード活用事例

## 【星槎道都大学】(学生のキャリア形成への活用)

### I 学校の概要

#### 【星槎道都大学】

- 所在地：北海道北広島市のキャンパスに「社会福祉学部」「美術学部」「経営学部」の3学部を設けている。
- 学校の概要・特徴
  - ・1978年設置。2017年4月、開学40周年を迎え、道都大学から星槎道都大学へ名称変更。
  - ・先行きの予測が困難な複雑で変化の激しい現代社会に必要なことを創造するとともに、社会の持続的発展を実現するため学術研究を通じて常に新しい道を切り開き、すべての人々が共生しえる社会の実現に貢献する。

### II ジョブ・カードを活用したキャリア支援の取組

- 大学からの要請を受け、北海道労働局の担当者が3年次のキャリア支援の授業でジョブ・カード作成演習を講義。
- 3年次の演習講義（選択科目）キャリア支援演習Ⅳ（就活等支援）において、就職活動に先立ち自己分析を深めるために「履歴書対策講座①～ジョブ・カードの活用～」というテーマで講義。
- 美術学部の28名、社会福祉学部の13名、経営学部の44名、合計85名がジョブ・カードを作成。

### III 取組の効果と課題

- 札幌新卒応援ハローワークの学卒ジョブサポーターや星槎道都大学のキャリア支援センターのジョブ・カード作成アドバイザーが引き続き個別相談に応じる体制を整えている。
- ジョブ・カードへの記入が難しいという意見も多かったが、アドバイザーとの相談の中で、添削を何度も繰り返しながら自分一人では知り得なかった自己理解をさらに深めている。エントリーシートや履歴書作成への活用、就職活動の意識付けの契機として期待されている。

#### 【学生からの主な意見】

- ・自分について分かりきっていると思っていたが、書き出してみると全く理解しておらず、とても時間がかかった。
- ・自分の得意なことが就活でどう活かされるのか考えたとき、うまくまとめられず作成が難しいと感じた。
- ・面接対策として自己アピールする上で、うまく話せるようにジョブ・カードを活用していきたい。

# 大学におけるジョブ・カード活用事例

## 【島根県立大学短期大学部】(学生のキャリア形成への活用)

### I 学校の概要

#### 【島根県立大学短期大学部】

- 所在地：松江市内の松江キャンパスに、「健康栄養学科」「保育学科」「総合文化学科」の3学科を設けている。
- 学校の概要・特徴
  - ・1953年大学設置。地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学を実現するとともに、北東アジアをはじめとする国際社会の発展に寄与する大学作りに取り組んでいる。

### II ジョブ・カードを活用したキャリア支援の取組

- 松江新卒応援ハローワークからの働きかけを受けて、ジョブ・カード活用を決定。
- ハローワーク職員（学卒ジョブサポーター）が担当するキャリアプランニングの授業において、1年次の学生に対して、キャリアプランニングのための自己分析ツールとしてジョブ・カードを説明。
- 学生約10名がジョブ・カード様式1-2を作成。週1回の出張相談時にハローワーク職員1名（学卒ジョブサポーター）がキャリアコンサルティングを実施。
- 自己分析ツールのほか、就職活動の意識づけの契機として活用。

### III 取組への効果と課題

- 学生が就職活動する際の意識づけの契機として有効に活用している。
- 島根大学においても3年生約20名に対する就職活動に向けた個別相談時でジョブ・カード活用が決定。
  - 【ジョブ・カードを作成した学生からの意見・評判】
    - 「ぼんやり」としていた目標が明確になり、自らの今後のキャリアを深めるためのきっかけを得られた。
    - さまざまな経験が次につながると気づき、就職活動に向けて様々なことを知ることができた。
  - 【課題】
    - 新規学卒者の就職活動時における応募書類としての活用促進及び募集を行う企業への周知。